

熊本は「微笑んぷらごんぷら」といって感じ……

● リーヌ・ルノーさん ●

リーヌ・ルノーさん。カナダの私の小屋「アルサスの春」など数多くのヒット曲を歌い、世界的に有名なレビューの女王。現在、カジノ・ド・パリ（仏）とラスベガス（米）の舞台にレギュラー出演しながら、テレビ・舞台で女優としても活躍中です。また、AACS（ア

ーチスト反エイズ協会の会長、居住地の町議会議員を務めるなど、社会的にも活躍されています。今回、シャンソンの祭典「パリ祭」のため来熊されたリーヌさんに、熊本の印象などを伺いました。



*Area Amicitie
17-7 Line Renaud*



「まず初めに、熊本についての印象をお伺いしたいのですが。」

東京、福岡、そして熊本が今回三番目になりますが、とっても気に入りました。生き生きとした街で、それに、何て言ったらいいのかわからず、「微笑んでいる」という感じ……。「微笑んでいる」というのはどういうことでしょうか。

つまり、とっても幸せそうな街という事です。一昨日ここに着いたとき、うまく言えないけれど、何か感じるものがありました。きれいなお店があつて、それに皆さんとっても親切ですね。とっても陽気なんです。ひよっとして「南」だからかしら、フランスみたいだね。フランスは南の人の方が陽気なんです。日本へはこれが初めてですか。

一九六七年に一度来たことがありますが、でも四日間だけでしたし、東京にしかいませんでしたから、今回が初めてと言ってもいいでしょうね。そういうのは、ひとつ驚いたことがありました。日本人って、もつと英語を話すと思っていたんです。それが思ったほど英語を話す方は少ないんですね。熊本県は積極的に外国人の教師を学校に招いているそうですけど、いいことです。外国語は習うだけでなく、実際に使ってみないとね。

「熊本へは大変よい印象をお持ちだと思いました。熊本県では「田園文化圏の創造」を目指して、文化振興や緑あふれるまちづくりに力を入れています。」

とてもいいことですね。熊本という街は大都会という感じではありませんけど、緑が多くて……。ほんとにきれいなのはびびくりしました。「田園文化圏」の考えには大賛成ですね。文化はいつまでも残りますから。

昨日、「シャンソンの祭典」が開かれた県立劇場なども実にすばらしいですね。地方にこれだけの設備を持つ劇場があるとは思いませんでした。それに、今日案内していただいた伝統工芸館もとても素敵です。ずいぶんたくさん写真を撮りました。それから、「シャンソンの祭典」ですが、感激でした。日本という国でフランスの文化そのものとも言えるシャンソンがこんなに認められているんですもの。今年はフランス革命二百周年ということでお招きを受けましたが、来年は逆に私が日本のシャンソン歌手の皆さんを招待することになっているんです。

「まさに文化の交流ですね。」
それから、細川知事へは、パリのシラク市長からお手紙をお預かりしています。シラク市長はパリ市庁舎のホールで、日本の子ども音楽教室のコンサ

ートをしたこともあるほどの日本びいきなんですよ。

ルノーさんは、今はパリに住んでいらっしやるんですか。

オフィスはパリですが、自宅はパリの西の郊外のリュエイル・マルメゾンというところです。この前の選挙で町の議員に選ばれました。ここにはナポレオンの妻ジョゼフィーヌの城があります。そして六月には、日本大使館の協力で日本庭園が造られたんですよ。お城もあるし庭園もあるし、熊本と姉妹都市関係が結ぶ、というのもいいかもしれませんね。

（インタビュー兼通訳
広報課 宇野佳子）

